



## こんな活動こそ、生きる力を育む！

自然学校では、自然学校推進事業実施要項で示しているように、「学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、児童が人や自然、地域社会とふれ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、『生きる力』を育成することを目的とする」ことをその趣旨として、さまざまな活動が展開されています。



また、兵庫県教育委員会は、平成19年度に自然学校評価検証委員会を開催し、自然学校のさらなる充実を図るための「6つの方策」を示しています。その方策の一つに、社会性や自立性等を育む集団活動の充実があります。この方策に向けての活動例として、「1本の木から何できる」という新たな活動に取り組みされた小野市立来住小学校の実践を紹介します。

自然学校の目的の一つに「体験活動を通して、自主性や自立心を養う」を挙げ、それを具現化する活動として「1本の木から何できる」を2日間にわたって行われました。1日目、木の伐採を通して子どもたちは、木の倒れる迫力や音、あるいは、ひのき独特の香りを体験することが出来ました。2日目、10m以上もある伐採した木を切断することなく、32人の子どもたちが協力して約500m離れた工作室まで運び出しました。その後のクラフトでは、子どもたちの自由な発想のもと、ベンチや丸太のいす、木のパチンコなど様々な作品が出来ていました。そのベンチは、地域で交流のある老人へ座っていただくためであり、事後の学校教育活動に生かされたクラフトであったようです。



私が、一番すごいと感心したのは、伐採した木を全員の力で運んだということです。「よーいやさ、よーいやさ」と声をかけ、まさに、秋祭りの屋台を担いでいるかのようでした。「〇〇ちゃん、力があるんやから、枝じゃなく木を持ってよ！」と、女の子が言えば、「こっちだって、一人で頑張るとんやで。もっと、バランスよく持ったらええんや」と、男の子が言い返していました。ケンカではありませんが、そこには、子どもたちなりの葛藤がありました。自分勝手な行動したり、他人を戒め傷つけたりしているのではありません。各自が一番いいと思うことをして、さらに、よい運び方を追求しているのです。自分の考えを言い合える、ぶつけ合える集団が出来ているのです。そんな中、誰かがイニシアティブを取り、「みんなで力をあわそう」となったようです。きっと、力が弱い子どもの周りには、たくさん子どもたちで大きな木を支えようという優しさも思いやりもあったことでしょう。一本の大きな木を運ぶために、集団の中での友だちとのつながりを感じ、協力することの大切さを身を持って体感したはずです。また、先生の指示ではなく、自分は何をすべきかを考え、実際に行動に移す一連の活動を通して、人間関係を深め、集団生活を充実させようとしていたのです。さらに、すごいと感じたのは、先生方が指示を出したり意見したりするのではなく、子どもたちの葛藤や活動を「見守る」ことに徹した先生や指導補助員等の姿勢です。ここに、子どもたちと大人の信頼関係が成り立っているのです。子どもたちは、自分たちに任されていると考え、自分一人では出来ないことであっても、課題解決のために、友だちと一緒に試行錯誤して自ら考え行動する力を育んでいこうとするのです。おそらく、普段の学校生活においても、子どもたちの葛藤場面を多く設定し、先生が手を加えず子どもたちに苦難

を乗り越えさせる学級経営をされているものと思います。

来生小学校の「1本の木から何できる」という活動は、学校では得難い体験活動です。木の伐採からクラフトにつなげるちょっとした活動は、それ以上に、子どもたちの社会性や自主性、そして自尊感情を育む活動になっていると言えます。

## 第1回自然体験活動1日講座を開催！



平成25年6月25日（火）に、「自然に親しむ」をテーマに第1回自然体験活動1日講座を開催したところ、高等学校の10年経験者研修7名を含む47名の先生方に参加いただきました。

午前中は、兵庫県レクリエーション協会副会長の田淵先生による「自然でゲーム」で、レクリエーションゲームや自然体験型のネイ



チャーゲームが中心で、生活科、理科、学級活動、学級開きや仲間づくり等に活かせるものでした。午後からは、日本余暇文化振興会研究員の松井先生による「野遊び」で、草花遊びをしたり熊笹で笹舟を作ったりしました。これらの活動を通して、自然体験活動に係る技術や指導法について研修し、指導力の向上を目指しました。

### ☆参加者の感想より（一部抜粋）☆

- ・ **自然のものを使って遊ぶことは、とても楽しかった。**けれども、自然のものを使うと思わぬハプニングが起きやすく上手くいかない場合が多いので、先生が熟知して子どもに伝えられたらと思う。
- ・ 実際に体験して考えることの大切さが分かった。**子どもに実物に触れさせる**ことをこれからの指導に生かしていきたい。
- ・ 色々な遊び、レクリエーションなど、今後使えそうなものがたくさんありました。**教える側も楽しまないと、子どもも楽しくない**という言葉が印象に残っています。
- ・ 自然の中で様々な体験ができ、**生きる力、感性の大切さ**を感じることが出来ました。教科書だけでは伝えきれない、実際に体験しなければ得ることができない学ぶべきことを再確認出来ました。

## 自然学校講座参加者募集中！



8月27日（火）から2泊3日で、自然学校趣旨や指導者の役割を理解するとともに、野外体験活動の実習を通して指導者としての資質能力を高めることを目的に「自然学校講座」を実施します。指導補助員（リーダー）を目指す大学生等が多いですが、先生方の受講も大いに歓迎します。特に、28日（水）



は、木や竹の伐採体験そして、それらを用いたクラフトを計画しています。全日程参加を原則としていますが、1日だけの受講も可能です。参加された先生から、「研修で学んだことを、子どもたちに活かしていきたい。また、リーダーさんと話す機会があり、彼らの考えも理解でき、充実した研修であった」と好評を得ています。2学期の準備等で忙しい時とは思いますが、ご参加をお待ちしています。

詳しくは、南但馬自然学校のホームページをご覧ください。

### 編集後記

自然学校でのそれぞれの活動を通して、子どもたちの成長が見受けられます。また、先生方の思いや願いも凝縮されています。今回は、そんなことを意識して、「指導課だより」を作成しました。

（文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也）